

公益財団法人日本バレーボール協会 2022 年度定時評議員会議事録

日 時：2022 年 6 月 17 日(金) 13：00～14：53

会 場：ワイム貸会議室 新宿西口 A・B 会議室

決議事項

第 1 号議案 第 12 期（2021 年度）計算書類等の承認の件

議事の経過の要領及びその結果

評議員会の開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大が小康状態であること、2021 年度の事業報告および決算が決議事項に含まれることから、感染症対策を十分に講じながら対面開催とした。

(1) 第 12 期（2021 年度）計算書類等の承認の件

菊地監事より監査報告、安藤経営企画部長より決算報告を下記のとおり説明し、賛否を諮ったところ、議長を含む賛成 16 名・反対 0 名にて承認可決された。

< 監査報告 >

太陽有限責任監査法人から監査概要説明が行われ、様々なお助言があった。その内容に基づき、公益財団法人日本バレーボール協会の第 12 期（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日）の業務及び財産の状況等について監査を行った。また会議への同席や JVA 役職員からの情報提供を含めて確認を行っている。事業報告書、会計帳簿、計算書等が正しく状況を示していると認める。不祥事があったものの、その後の迅速な対応もあり、現在はガバナンスが保たれた状態に戻っているとの見解に至った。

< 決算報告 >

【決算について】

決算書自体は当年度と前年度を比較する形になっているが、前年度は厳しいコロナ禍で収入も支出も少ない。その実績と比較しても実態を把握できないため、今年度の予算と決算の対比表の形で説明している。参考として昨年度決算額も併記している。

全体として、収入は「予算 15 億円のところ決算は 20 億円となり、4 億 6,300 万円上回り約 3 割の増収となった」。支出は「20 億円の予算だったが、事業をあまり実施できず 17 億 8,000 万円程度、2 億 6,300 万円弱下回り、1 割強の減少」となった。あわせて予算より 7 億円強の差が出た。費用の方は科目ごとに記載してもわかりにくいため、活動に直結する事業部ごとに記載した。

※第 12 期（2021 年度）決算については JVA ホームページに掲載済み

【公益認定法の3基準について】

公益認定法では、公益法人として満たさなければいけない以下の3基準を決めており、この3基準すべてを満たす必要があるが、以下のとおり3基準の状況を報告する。

1. 公益目的事業費率が50%以上であること

→公益法人として公益事業が主目的であるべきという趣旨

公益目的事業費率は88.86%（2020年度は79.82%）であり基準を満たしている。

2. 公益目的事業が収支相償であること（公益事業が黒字ではないこと）

→公益のための事業であるから、公益事業で利益を得てはいけませんが、利益が出たらさらに公益のために使用する趣旨

前年同様事業の中止、縮小が相次ぎ支出が大幅に減少したため、公益事業が250百万円の黒字となった。この黒字はコロナ禍でも収入は堅調だった一方で支出は事業の中止・縮小などで減少した結果である。2022年度の予算書では公益事業の赤字を235百万円とし、特定費用準備資金を700百万円積むなどして、2022年度末には黒字を一掃する予定である。

3. 遊休財産額が公益目的事業の額を超えていないこと

→公益法人が公益事業に必要な額以上の財産を保有する必要がないとの趣旨

公益目的以外の保有財産200百万円は公益事業に必要な額1,583百万円以下であり、基準を満たしている。

2つ目の、監査法人からも指摘があった収支相償の点については、「現状は黒字が解消していないという建付けだが、解消する施策を打っている」ということを説明する。この施策は後の議題にある「特定費用準備資金の積み立て」を考えている。

正味財産については2016年度あたりから増加傾向である。本来は増えればよいというものではなく、公益事業に使って回していかなければならないというものである。

「正味財産増減計算書内訳表」のうち、「公益目的事業会計」欄の「評価損益等調整前当期経常増減額」が公益事業の黒字となっている。

報告事項

(1) 第12期（2021年度）事業報告の件

村上事務局長より下記のとおり説明が行われた。

今年度は、2019年度末に発生した新型コロナウイルスの感染拡大のなかで2020オリンピック・パラリンピック東京大会（以下「東京2020大会」という）が無観客で行われたが、ほとんどの大会が中止または大幅な制限を受けた中で、すべてのカテゴリーの日本代表チーム

が活躍の場を失うという 2 年続けての厳しい一年となった。

その中でビーチバレーボールの選手登録のミスにからむ隠ぺいが発覚し、会長、事務局長がそろって辞任するという未曾有の事態となった。3 月 22 日に川合俊一氏が会長に就任し、バレーボールへの信頼回復が急務となった。

(1) 今年のトピックス

- ① 東京 2020 大会が無観客で開催され、男子は 1992 年のバルセロナ大会以来 29 年ぶりに決勝トーナメントに進出し 7 位となり、女子は 1996 年アトランタ大会以来 25 年ぶりの予選敗退の 10 位となった。また、ビーチバレーボールは男女ともに予選敗退となった。
- ② 第 4 回バレーボールネーションズリーグ (VNL) がイタリアで開催され、男子は 11 位、女子は VNL としては過去最高の 4 位となった。
- ③ 東京 2020 大会の前哨戦として 5 月に日本代表国際親善試合～東京チャレンジ 2021～を男女とも中国を迎えておこなった。
- ④ 9 月には第 21 回アジア男子バレーボール選手権大会を千葉県で開催し 2 位となった。
- ⑤ タイのプーケットで開催された「ビーチバレーボールアジア選手権」で石井美樹・溝江明香のペアが日本選手として 2001 年以來の決勝進出を果たし準優勝となった。
- ⑥ 天皇杯・皇后杯は開催できたが、ほとんどの国内大会が中止に追い込まれた。
- ⑦ 緊急事態宣言等の発令などにより、事務局の閉鎖、50%在宅などを長期間にわたって実施した。

(2) 決算について

オリンピックの延期により今年度も引き続き強化に注力する赤字予算を計上したが、継続するコロナ禍のもと、多くの事業で影響を受け予算通りに実施できなかった。反面、収入面ではオリンピック開催年ということもあり大きく落ち込むこともなく順調に推移した結果、黒字決算となった。

収入面では、当初予算 1,572 百万円から 463 百万円増の 2,035 百万円となり、支出面では当初予算 2,045 百万円から 264 百万円減の 1,781 百万円となった。税引き後の最終利益は 230 百万円となった。

※第 12 期 (2021 年度) 事業報告については、JVA ホームページに掲載済み

(2) 特定費用準備資金の積み立てについて

安藤経営企画部長より下記のとおり説明が行われた。

(提案理由)

公益認定法でいう以下の財務 3 基準のうち②収支相償基準を 2020 年度において満たしておらず (126 百万円の黒字)、2021 年度の事業の赤字にて解消する計画を報告していた。

収支相償基準とは「公益事業は黒字を出してはいけない。黒字の場合には早急に黒字を解消

する施策が求められる」というもの。

【財務3基準】

- ①公益目的事業比率が50%以上であること
- ②公益目的事業が収支相償であること（公益事業が黒字ではないこと）
- ③遊休財産額が公益目的事業の額を超えていないこと

【2020年度の黒字（126百万円）の解消方法】

2021年度の公益事業の赤字（予算）で、黒字を解消する予定であったが、継続するコロナ禍で、支出は制限され、収入は底堅く推移したことで今年度の公益事業は黒字250百万円となり、解消できないばかりか黒字が拡大した。2021年度末の公益事業の黒字を解消するため、特定費用準備資金700百万円を積み立てることが承認された。

【7億円積み立ての具体的な内容】

特定費用準備資金① 積立200百万円

- ・資金の名称：2028 ロサンゼルス・インドア積立金
- ・計画期間：2024（令和6）年度～2027（令和9）年度の4年間
- ・積立限度額：200百万円 2022年度の積立額—200百万円

特定費用準備資金② 積立100百万円

- ・資金の名称：2028 ロサンゼルス・ビーチ強化積立金
- ・計画期間：2024（令和6）年度～2027（令和9）年度の4年間
- ・積立限度額：100百万円 2022年度の積立額—100百万円

特定費用準備資金③ 追加積立300百万円

- ・資金の名称：国際大会開催積立金
- ・計画期間：2023（令和5）年度～2024（令和6）年度の2年間
- ・積立限度額：500百万円 2022年度の積立額—300百万円
（2019年度に既に200百万円を積み立て済みのため、合計は500百万円）

特定費用準備資金④ 追加積立100百万円

- ・資金の名称：100周年記念事業積立金
- ・計画期間：2022（令和4）年度～2026（令和8）年度の5年間
- ・積立限度額：150百万円 2022年度の積立額—100百万円
（2017年度に既に50百万円を積み立て済みのため、合計は150百万円）

この結果、当期末（2022年度末）の特定費用準備資金の一覧予定は下表のとおり。

名称	既積立額	新規積立額	当期末残高
100周年記念事業積立金	50,000,000	100,000,000	150,000,000
2024パリ・インドア強化積立金	260,000,000	0	260,000,000
2028ロサンゼルス・インドア強化積立金	0	200,000,000	200,000,000
2024パリ・ビーチ強化積立金	130,000,000	0	130,000,000
2028ロサンゼルス・ビーチ強化積立金	0	100,000,000	100,000,000
国際大会開催積立金	200,000,000	300,000,000	500,000,000
合 計	640,000,000	700,000,000	1,340,000,000

ただし2024パリ五輪に向けた積立金はインドア、ビーチともに半分が今期取り崩しとなる。

(3) 評議員の任期満了について

山本議長より下記のとおり説明が行われ、川合会長より退任の方へ挨拶が行われた。

●退任評議員 16名

2022年6月17日の定時評議員会の終結の時をもって任期満了

有森裕子 宇津木妙子 遠藤健三 遠藤俊郎 柿木章 川瀬昭男 木高譲 杉山英沙子
竹淵光雄 田村悦智子 中島茂 西明宏 平野裕一 三屋裕子 山岸英一 山田道人

●次期評議員 24名・・・重任9名・新任15名

2022年6月17日の定時評議員会終結後～2026年6月開催の定時評議員会の終結の時まで

飯野智子 尾縣貢 神野和幸 刈屋富士雄 菊間千乃 黒田謙二
佐藤伊知子 佐藤文男 下村英士 杉山明美 田代英明 舘岡清秋
田原淳子 中馬義郎 成田真由美 野口京子 原正雄 平野ノラ
堀田利子 水間尚 村瀬登使文 村松喜一郎 山ノ川孝二 山本章雄

※氏名下線は新任

また、山本議長より今回は公益財団となって3期目の評議員会であり、これまでは任期満了のたびに会長が代わるという事態で、適正な運営体制をつくるべく、今期については「評議員の申し合わせ事項」や「ガバナンス推進会議」など様々な活動をしてきたことについて紹介があった。

以上をもって、議長は14:53に閉会を宣した。